

幾度となく危機を乗り越えてきた株式市場



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 世界株安継続でナスダックは安値

世界的な株安が続いています。4月26日の米国株式市場では主要3株価指数が大きく下落し、ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数は前日比4.0%安となりました。同指数は3月14日につけた年初来安値を更新し、2020年12月以来の安値水準にまで下落しました。足元では、①ロシアによる軍事侵攻長期化への懸念、②中国のコロナ感染再拡大に伴う同国景気の失速・供給網混乱長期化への懸念、③米利上げ加速による米景気の先行きへの懸念など、不確実性要因の多さが世界の株式市場全体の重しになっているとみられます。

ただ、過去を振り返ると、株式市場は幾度となく危機を乗り越えてきたことを忘れてはなりません。21世紀に入って以降、9.11同時多発テロや、リーマン・ショック、チャイナ・ショック、米中対立激化、コロナ・ショックなど様々な危機に直面してきましたが、株価は全てそれを乗り越えてきました（右上図）。

ポイント② 危機後も企業利益は拡大してきた

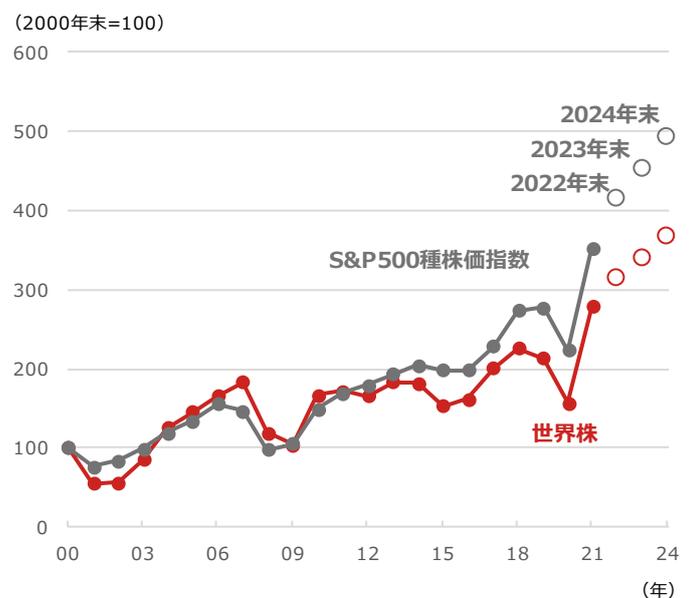
人類にはピンチをチャンスに変えて、世の中をより良くすべく更なる成長を促す力があります。過去の危機の後には再び企業利益は成長過程に回帰しており、リーマン・ショック後の米IT大手のイノベーション、直近のコロナ・ショック後のデジタル革命の急速な浸透などは記憶に新しいと思います（右下図）。

現在上述した様々な不確実性が存在しますが、現時点ではそうした逆風下でも2024年末に向けて企業利益の成長が見込まれています（同図）。危機的な状況におかれている最中では、不安心理が先行しがちですが、そうした時こそ長期目線に立って、客観的に物事を捉え、投資を行なっていくことが肝要といえます。

世界株とS&P500種株価指数



世界株とS&P500種株価指数のEPS（1株当たり利益）



*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。